

広報

my hometown TOMIOKA 2013

とみおか

10

No.612

主な目次 Contents

富岡町敬老会	02~03
お知らせ	05~08
こんにちは。大玉仮設診療所です!	09
とみおか桜通信	10~15
彦根市で小中学生が夏の思い出づくり	16
富岡一中バドミントン部全国中体連男女3連覇	17
とぴっくす	18~20

会場に集う元気な笑顔 富岡町敬老会3年ぶりに開催

震災後初めてとなる富岡町敬老会が9月5日と12日の両日、郡山市といわき市の2会場で行われ、各避難先から450人(招待者は2500人)が出席し再会を喜び合いました。

式典では宮本町長によるあいさつのもと、1747人の75歳以上を代表して郡山会場が宇佐見正俊さんと瀧澤ナツヨさん、いわき会場が渡辺泰弘さんと古田清子さんに敬老祝金を贈呈。続いて、結婚60年を迎えられたご夫婦9組を代表し、高橋圀雄さん・シゲ子さんご夫妻と猪狩卓治さん・マサ子さんご夫妻にダイヤモンド婚表彰が、また、金婚を迎えられたご夫婦48組を代表し、渡邊光祥さん・静子さんご夫妻と佐藤一成さん・靖子さんご夫



あいさつを述べる宮本町長
(郡山会場)

妻に福島民報社・福島県老人クラブ連合会会長表彰が贈られました。

三春町から郡山会場に出席した齋藤幸子さん(下郡山)は「同じ行政区の方と会うのが楽しみ。できることからみんなで手を取り合い富岡に帰りたいです」と、また、いわき市に住む林徳夫さん・正子さんご夫妻(中央)は「皆さんにお祝いしていただき嬉しい。知りあいともなかなか会えないので、こういう場を設けていただき感謝します」と語られ、会場内には笑顔の輪が広がっていました。

最後に、出席者を代表して富岡町老人クラブ連合会会長の渡邊喜助さんが「皆さまの温かい言葉に明日への希望をいただきました。これからも毎日を元気に過ごしたいと思います」と感謝の言葉を述べ、来年の再会を誓い合いました。

敬老会終了後のアトラクションでは、いわき市出身の歌手、紅晴美さんのコンサートが行われ、出席者の皆さんは、紅さんの艶やかな歌声に聴き入りながら楽しいひと時を過ごしていました。

郡山会場 (迎賓館グランプラス)



ダイヤモンド婚表彰
代表 高橋 圀 雄さん
シゲ子さん ご夫妻



しあわせ金婚夫婦表彰
代表 渡邊 光 祥さん
静子さん ご夫妻

来年も元気で会いましょう

いわき会場 (パレスいわや)



ダイヤモンド婚表彰
代表 猪狩 卓 治さん
マサ子さん ご夫妻



しあわせ金婚夫婦表彰
代表 佐藤 一成さん
靖子さん ご夫妻



敬老会の開催によせて

敬老会の開催にあたり、富岡町民を代表いたしましてご挨拶を申し上げます。

まず、ご不便ご苦勞をおかけしております。避難生活の中、ご出席いただきました四百五十人に上る皆様一人ひとりの元気な姿を拝見し、大変うれしく感激をしております。また、本日出席の皆様に対しまして、日々の健康と敬老の日を心よりお祝い申し上げます。

さて、富岡町敬老会が平成二十二年度以来、三年ぶりの開催となりました。例年は、各行政区の皆様のご協力による開催でありましたが、県内外に多くの皆様が避難されている状況の中、ご本人ご家族はもとより、各行政区長様、自治会長様のご理解とご協力で「平成二十五年度富岡町敬老会」が開催できましたことに、心より敬意と感謝を申し上げます。

わが町同様に避難を強いられている、他の自治体に先駆けての開催と

富岡町長 宮本皓一

なりましたが、こうした行事の役割は町民の皆様と町との、さらには町民相互の繋がりを確かめ培うことであり、皆様の明るく穏やかな表情に、温情と力強い富岡町民の意地を感じるところであります。

とりわけ、今回ご参集いただいた皆様におかれましては、幾多の苦勞も乗り越えて来られた人生の先輩であり、現代の社会を築き上げて来たのは、他ならない皆様方です。長い経験に裏打ちされたお知恵や助言、ご意見を謙虚に賜りたいと存じますので、今後ともご指導、そしてご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

私たち町行政も「ふるさと富岡町」の復旧・復興に向けて着実に歩みを進め、今後も全力で邁進してまいります。

結びに、皆様健康に留意され、日々を元氣にお過ごしください。私を心よりご祈念申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。

常磐自動車道の除染状況を隣接行政区長が視察



仮置き場の空間線量率を測定

今年度内の再開通をめざし除染と復旧工事が進む常磐自動車道の富岡く広野インターチェンジ間で8月7日、同自動車道の隣接行政区長による視察が行われました。除染作業が開始された昨年10月末から、隣接行政区の各区長を中心に治安維持パトロールを実施しており、今回の視察では除染によって出た汚染土などを置く仮置き場の管理状況を確認しました。また、視察のあと意見交換会が行われ、坂本壽昭行政区長会長を中心に各行政区長から住民を代表しての意見や要望等が出されました。



復旧が進む常磐自動車道



意見交換会

<富岡町役場 臨時職員登録のご案内>

町では必要に応じ、臨時職員登録者の中から各種補助員を雇用しておりますが、登録者が不足しているため再度ご案内いたします。

- 勤務先** 富岡町役場郡山事務所(福島県郡山市大槻町字西ノ宮48-5)
- 申込方法及び受付期間**
 - 申込方法: 履歴書1部を提出してください(持参、郵送どちらも可)。
 - 受付期間: 平成25年10月4日(金)～平成25年10月25日(金)
 - ※履歴書には避難先住所、住民登録のある住所を記載してください。
 - ※郵便提出の場合は、平成25年10月24日(木)消印のものに限りです。
 - 提出先: 富岡町役場生活支援課(〒963-0201 福島県郡山市大槻町字西ノ宮48-5)
- 職務内容** 借上げ住宅業務、その他事務・電話対応等(勤務時間は町職員の勤務時間に準じます)
- 雇用期間** 6ヵ月以内(ただし、必要と認めるときは更新可)
- 次のいずれかに該当する者は受験できません。**
 - ・日本国籍を持たない方。
 - ・成年被後見人又は被保佐人(準禁治産者を含む)。
 - ・禁固以上の刑に処せられ、その執行を終わるまで又はその執行を受けることがなくなるまでの者。
 - ・富岡町職員等として懲戒免職の処分を受け、当該処分の日から2年を経過しない者。
 - ・日本国憲法施行の日以後において、日本国憲法又はその下に成立した政府を暴力で破壊することを主張する政党その他の団体を結成し、又はこれに加入した者。
- 問い合わせ先:** 富岡町役場生活支援課住宅支援係 ☎0120-33-6466



県外に避難されている方の健康診断について

避難されている都道府県内の医療機関で、16歳以上を対象とした施設検診を実施いたします。委託先の(財)日本予防医学協会から郵送にて書類を9月に送付いたしましたので、記載内容にしたがってお申込みください。

なお、県外に避難されている方で、書類がお手元に届いていない方は、問い合わせ先までご連絡ください。

▼検診申込み
11月30日(土)必着
※申込み期限を過ぎると検診を受けることができませんので、お早めにお申込みください。

▼検診受診期間
12月末日まで
※指定された医療機関にて検診を実施された場合、県民健康管理調査の検査項目も同時に検査いたしますので、ぜひこの機会に受診してください。

▼住民課 国保年金係
(国保の特定健診・後期高齢者の健診)
健康福祉課 健康づくり係
(それ以外の検診)

インフルエンザ予防接種を希望する65歳以上の皆さまへ
今年も65歳以上の方と、60歳以上65歳未満で重い障がいのある方に対して、インフルエンザ予防接種の助成を行います。

▼期間
平成25年10月1日～12月31日

▼対象者

- 富岡町に住民登録のある、接種当日で満65歳以上の方。
- 富岡町に住民登録のある、接種当日で満60歳以上65歳未満の方で、心臓・腎臓

もしくは呼吸器の機能またはヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に重い障害があり、日常生活が極度に制限される方(身体障害者手帳1級をお持ちの方)。
▼助成額
全額助成(自己負担なし)
※助成回数は1回に限りません。

▼接種にかかる手続き
(県内にお住まいの方)
接種をご希望の方は、事前に町のコールセンターまでご連絡ください。パンフレット、予診票、接種済証を送付いたします。

また、郡山事務所・いわき支所・三春出張所・大玉出張所の窓口でも交付いたします(大玉仮設診療所での接種をご希望の方は、同診療所で交付)。

〈県外にお住まいの方〉
原発避難者特例法により、避難先市町村に生まれ、住民の方と同じように接種ができますので、避難先市町村の予防接種担当までお問合わせください。

また、市町村によって助成額が異なり、自己負担金が生

じる場合があります。自己負担が生じた場合には、富岡町より還付いたしますので、健康づくり係までご連絡ください。

▼健康福祉課 健康づくり係
☎0120-33-6466

県からのお知らせ

県では、10月を「不正軽油撲滅強化月間」と定め、関係団体と協力して、不正軽油の排除に取り組んでおります。

軽油に課せられる県税である軽油取引税(321円/ℓ)を脱税する目的で、軽油に灯油や重油を混ぜるなどして製造される燃料、いわゆる「不正軽油」が正常な軽油と偽って販売、使用されています。

この不正軽油は、悪質な脱税行為であり、環境汚染やエンジン故障の原因、公正な市場競争の阻害、更には暴力団等の資金源にもつながります。

「不正軽油を作らない・売らない・買わない・使わない」県民の皆さまのご協力と情報

提供が欠かせません。不正軽油の情報提供につきましては、相双地方振興局県税課までご連絡ください。

▼相双地方振興局県税課
☎0244-26-1127
FAX 0244-26-1128

住宅の二重ローンでお困りの方へ

福島県では、東日本大震災で住宅に損害を受けた方の生活再建を支援するため、住宅の二重ローンに対する利子補給を行います。

被災程度、債務残高や借入額等、補給を受けるためには条件がありますので、詳しくはインターネット検索サイトで「福島県二重ローン」と検索するか、県建築指導課にお問い合わせください。

▼県建築指導課
☎024-521-8184





明日へつなぐ船

福島第一原子力発電所事故発生から2年半になります。あれから様々な活動が行われてきましたが、これから地域づくりの役割を担っていく子どもたちは、どちらかという故郷への想いを口にする機会が制限されてきてしまったのではないのでしょうか。

将来の地域づくりを担う子どもたちが、茨城から北海道に向けて出港するフェリーの船上で、ふるさと福島への想いを語り合うことで、記憶を風化させずにこれから自分たちは何ができるのか、何をすべきなのかをともに考えるきっかけをつくりたい。

ふるさと福島の未来について、一緒に考えてみませんか？ ご参加をお待ちしています。

- ▶ **日 程** 平成25年12月25日(水)～12月28日(土)までの3泊4日(船上での2泊含む)
- ▶ **内 容** 大洗港～苫小牧港のフェリーの往復と北海道滞在を通しての交流会・研修会(当日の詳細な内容は福島から茨城に避難されている方や茨城県民と企画中です。)
- ▶ **対 象** 震災時、浜通り在住の現在中学生、小5・6年生
- ▶ **参 加 費** 10,000円
- ▶ **募 集 人 数** 20名(応募多数の場合、書類選考)引率者は6名を予定
- ▶ **主 催** 明日へつなぐ船 実行委員会(参画団体:積小為大の会、茨城NPOセンター・コモンズ等により構成)
- ▶ **申 込 期 間** 10月10日(木)～11月20日(水)参加希望者に応募用紙を郵送
- ▶ **集 合 場 所** 大洗港
〈集合〉12月25日(水)17:30予定 〈解散〉12月28日(土)15:00予定
※集合・解散場所の大洗港までの交通費に関しては各自ご負担願います。
- ▶ **申込み・お問合わせ** 明日へつなぐ船実行委員会事務局(特定非営利活動法人 茨城NPOセンター・コモンズ内) 担当:天井(あまい)まで〒310-0022 茨城県水戸市梅香二丁目1番39号 茨城県労働福祉会館2階 ☎029-300-4321 FAX:029-300-4320 eメール:info@npocommons.org

相双地域ポータルWebサイト「相双ビューロー」のリニューアルについて

相双・双葉地方の地域ポータルWebサイト「相双ビューロー」が平成25年8月28日よりリニューアルされましたのでお知らせいたします。

- ・ すっきりとした見やすいスリーレイアウトを採用。
- ・ 「このひと」「SOSO Kids!」で、相双の元気を発信。
- ・ 道路の開通や旅館など観光情報を充実。また、相双ビューローでは皆さまからの相馬・双葉のイベント情報をお待ちしております。

☎ NPO法人うつくしまVST相双支部 田中 ☎0244-26-3160
メールアドレス sosojoho@yumesoso.jp

第12回双葉地方広域消防職員意見発表会の開催について

第12回双葉広域消防職員意見発表会を開催します。「守れ尊い命」消防活動現場から若き消防隊員の「生」の声をお聞きください。

- 日 時 平成25年11月13日(水) 午後1時30分～午後3時
- 場 所 川内村コミュニティーセンター 大ホール
- 発 表 者 消防職員 5名
- 主 催 双葉地方広域市町村圏組合消防本部
- そ の 他 入場は無料です。

※来場される方は、予め下記問合わせ先へ人数等の連絡をお願いいたします。

☎ 双葉地方広域市町村圏組合消防本部 総務課 ☎0240-25-8523

「帰還困難区域」への立入り(通過を含む)について

避難指示区域見直し後の「帰還困難区域」への立入り(通過を含む)について、改めてお知らせいたします。

▼ 注意点

- ① 申請内容の確認、通行証の発行及び郵送期間等を考慮し、立入り予定日の10日前までに申請してください。
- ② 町内への立入り時間は、午前9時から午後3時となっております。
- ③ 避難指示区域の見直しに伴い、町が各世帯に交付した「立入り証」(青色のラミネート加工されたもの)では、「帰還困難区域」へ立入りを行うことはできませんのでご注意ください。
- ④ 自然災害の発生や気候状況の急激な悪化が見込まれる場合は、立入りの遠慮をお願いすることがあります。
- ⑤ 申請のない「帰還困難区域」への立入りは認められません。

▼ 申請等の方法

- (1) 一時帰宅専用コールセンターへの申請

ターへの申請

○ 自宅が「帰還困難区域」にある方については、国が委託する一時帰宅専用のコールセンターに電話で申請してください。

○ 受付の際に、コールセンターから送付される案内用紙の右下に記載されている問合わせ番号「050」で始まる7桁の番号を伝えて頂くと、受付をスムーズに進めることができます。

(2) 町担当への申請

次に該当する場合は、町担当まで申請してください。

① 町内外の「帰還困難区域」を通過して、町内の「避難指示解除準備区域」又は「居住制限区域」への立入りを行う場合。

(例: 自宅が「居住制限区域」であり、南相馬市へ避難している。)

※「帰還困難区域」内は、通行できる道路及び時間が限られています。

② 自宅が町内の「避難指示解除準備区域」又は「居住制限区域」であるが、町内の「帰還困難区域」にある実

家へ一時帰宅する場合

③ 通勤、通院、催事(冠婚葬祭等)のために、町内外の「帰還困難区域」を通過する場合(特別通過交通制度)。

(例: いわき市へ避難しているが、南相馬市の会社へ通勤している。)

※「帰還困難区域」内は、通行できる道路及び時間が限られています。

※雇用証明書、通院証明書等の裏付けが必要となります。

※対象となる事項が限定されますので、申請すれば通過できるわけではありません。

(3) 他町への相談

自宅が町内の「避難指示解除準備区域」又は「居住制限区域」であり、他町の「帰還困難区域」にある実家等へ立入りを行う場合は、次により立入り先の自治体へ相談してください。

また、他町の「避難指示解除準備区域」又は「居住制限区域」に立入りをする場合についても、立入り先の自治体へ相談してください。

☎ 生活支援課

お詫びと訂正

広報とみおか9月号(No.611)5ページ、被災証明書の記事に誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。

- 郵送先 誤: 郡山市大槻町字西ノ宮48-1
正: 郡山市大槻町字西ノ宮48-5

自治体名	担当部署	電話番号
大熊町	環境対策課	0120-26-3844
双葉町	住民生活課	0246-84-5204
浪江町	復興再生事務所	0240-34-2111

一時立入りに伴う子どもの一時預かり

保護者の方が富岡町内に入る際、いわき市内の施設でお子さまの一時預かりを実施しております。利用するには予約が必要となりますので、立入り日が決まりましたら利用希望日の1週間前までにお申込みください。

【楡葉町子育て支援センター(あおぞらこども園中央台仮設園舎内)】

住 所: いわき市中央台飯野5-6-1 ☎0246-38-3082

対象児童: 1歳～小学4年生 利用時間: 午前9時～午後5時まで

- ① 1歳～就学前児童 月～土曜日 ② 就学児童 土曜日のみ(長期休暇中は火・木・土曜日)

申込方法: 初回は利用登録申請(年度毎に更新)が必要となります。

① 1歳～就学前児童…初回利用の際、富岡町とみたさくら保育施設へ利用登録申請のうえ、楡葉町子育て支援センターに電話で利用申込みを行ってください。

富岡町とみたさくら保育施設 住 所: 郡山市富田町字若宮前32 ☎0249-35-1522

② 就学児童…初回利用の際、富岡町こおりやま児童クラブへ利用登録申請のうえ、楡葉町子育て支援センターに電話で利用申込みを行ってください。

富岡町こおりやま児童クラブ 住 所: 郡山市南1丁目94 ☎0249-46-7585

☎ 健康福祉課 福祉係

渡辺 庄一さん (上郡)
TOMIOKA 桜(さくら)通信



私は、福島第一原発構内にある勤務先の事務所で被災しました。天井のエアコンは落下、書棚やロッカーも倒れてしまいました。作業員全員の安否確認を行い、確認ができた協力会社から帰宅するよう促し、私たちは午後4時頃に帰宅しようとしていましたが、すでに道路は大渋滞となっていました。

自宅に到着したところ、双葉高校に通う長男と連絡が取れないと聞き、妻と同校に向かいました。途中、道路の陥没等があり迂回しながら到着しました。

翌日、停電のため自宅内では防災無線が聞こえず、近所の人から川内村に避難するように放送があったと教えられました。行政区内を回り、住民の避難を確認したあと出発しましたが、大渋滞でなかなか進むことができずガソリンの残量も少なかつたため、車での避難をあきらめてリフレ富岡から避難バスに乗り、田村高校体育館に向かいました。その後、原発が爆発したため危険を感じ、埼玉県在住の長女一家のもとに世話になることにし、迎えに来てもらいました。

埼玉に逃れた数日後、原発の復旧作業に向かうよう勤務先から連絡があり、一昨年3月21日から現在までその作業に従事しています。家族は、その4月、現在生活しているアパートに移りました。

被災後、原発では高線量をはじめとする過酷な状況下で、東京電力、私たち協力会社ともに、最善を尽く

して来たと思います。事故の発生以降、様々な問題を抱えています。私も含め一生懸命やってきたことは事実ですので、その努力は少しでも認めていただきたいと思えます。これからも今できることを模索しながら、収束に向けて頑張りたいと思えます。

各地に避難した皆さんと連絡を取るには大変でしたが、一昨年3月下旬に上郡行政区の総会を開催しました。私は区長の任期を終える予定でしたが、席上、震災前の体制の継続を望む声が多数あったため、引き続き区長をしております。その後、今年3月に総会を開催しましたが、執行部提案として、「仮の町」の設置にあたり、当行政区内における用地提供を行政区として要請することを決め、町長(当時)宛てに「仮の町設置要望書」を提出させていただきました。一刻も早い富岡町への帰還に向けて、行政区一丸となって協力したいと思います。

上郡行政区長。勤務先は原発構内で作業を行う会社。原発の爆発直後より、収束作業にあたっている。現在、いわき市内で母、妻、娘とともに生活している。

TOMIOKA 桜通信

第18号

東日本大震災と原発事故により、私たちは、ふるさとを離れ、全国に分散した避難生活を強いられています。

この「TOMIOKA(とみおか)桜通信」では、避難生活を続ける皆さんや、富岡町にゆかりのある方々のもとを訪ね、皆さんの声をお届けし、ふるさと「富岡」という「絆」をつないでいこうというものです。



渡邊 元一さん・正子さん (上郡)

TOMIOKA 桜(さくら)通信



私たちは震災前、田畑約3haを耕作し、牛を9頭(うち3頭は子牛)飼育していました。妻が不在中に被災しましたが、娘たちとともに川内村内の親類宅や避難所を経て埼玉県宮代町の避難所で妻と合流することができませんでした。妻とは再会するまで連絡が取れない状況でしたが、私たちが川内村から埼玉県杉戸町に向かう避難バスに乗り込む様子をテレビで見て、無事を確認したということです。

宮代町では、福島県出身や富岡町に居住していたことのある方から、とても良くしてくださりました。また、私はJAふたばの組合員だったため、現地のJAで当座の現金を融通していただくことができ、とても助かりました。震災後の4月初旬、最低限の物を取りに行くため、警戒区域が設定される前に危険を承知で一度自宅に戻りました。帰り際、残してきた牛たちが車を追いかけてきましたが、辛い思いを押し殺し振り返ることなく自宅を離れました。

その後、県内の二次避難所を経て、一昨年7月、現在生活している仮設住宅に移りました。こちらに移ってから、気分転換と運動不足解消のため、周辺の散歩を始めました。その道中、農家の方々と知り合い、土や苗を分けていただくようになり、仮設住宅内の空地を利用して、花や野菜類を植えました。そのうち、他の入居者の皆さんも始めるようになり、仮設住宅の敷地内で土が露出しているところは、すべて畑や花壇になっています。プレハブとアスファルトの殺風景な中に「オアシス」が生まれています。

現在、被災前まで同じ町内に生活していた家族は、学校や仕事の都合で離れて暮らしています。特に、南



軒下を彩る収穫物やプランター (左上・とうがらし、右下・きゅうり)

谷津 卓郎さん (大菅)

TOMIOKA 桜(さくら)通信



近所の皆さんとともに (本人は写真中央)

私は、広野火力発電所構内で仕事、車を運転している時に地震と津波に遭遇しました。職場で安否確認をした後、津波で車を流された同僚3人を乗せ発電所を出ました。まず先に、町内の海岸近くに住んでいた同僚を送って行きましたが、自宅は津波で流されていたため、内陸部に住む仕事仲間と預けました。次に、私の自宅と避難所に寄り、家族の無事を確認してからもう一人の同僚を南相馬市原町区の自宅まで送っていきましたが、同地区の被害の少なさには驚きました。

その後帰宅しましたが、泥棒が心配で自宅を夜を明かしました。翌朝からの避難では、川内村の知人宅、宮城県丸森町にある実家、三春町の仮設住宅等を経て、昨年10月、現在の場所に移り、この4月からは家族も合流しました。

私は現在、原発関係の仕事に就いています。被災当時は火災での仕事でしたが、原発での勤務経験もあったため、避難直後、第二原発に来てくれと話がありましたが、家族のことなども考え、その要請に応えることはできませんでした。その代わりというわけではありませんが、原発の収束や復旧作業が本格化した時に役立つであろう各種資格を取得し、三春町に移ってから、除染関係の仕事に就きました。テレビなどで原発構内で設備などが整然と並んでいる様子が報道されていますが、実際に携わると言葉にはできないほど過酷で緊張する状態です。まさに「闘い」の連続でした。

富岡町さくらサロン (自治会長 堀川 潔さん)

TOMIOKA 桜(さくら) 通信



福島市を中心とする県北地域では、富岡町からの約200世帯が避難生活を送っています。この地域には富岡町の仮設住宅が無いので、いわきや県中地域に比べて近所に友人や知人が少ないという方も多く、孤独や孤立につながらないようにと有志を募り「福島市及び県北地区在住富岡町民自治会」を発足させました。

現在、当自治会には72世帯が加入しています。県北地域の避難者全体の半分にも達していませんが、未加入世帯にもお知らせなどの送付を行っている。また、入寮生への支援を含め、寮の運営にも多大なご協力を賜り、誠にありがとうございました。

中学校の卒業式が行われた震災発生前、寮には生徒だけでなく、中学校を卒業した生徒の保護者もおり、またその夜には、周辺住民の方の姿も多く見られました。翌朝からの避難となりましたが、親元を離れて入寮していた生徒にとっては、とても不安だったと思います。子を持つ親として、遠方から子どもの安否を心配する保護者の方々の気持ちを思うと、とても辛いものがありました。また、アスリート育成のための拠点となる、桜風寮をゼロから創ってきた自負があるだけに、それが無くなってしまふことは非常に無念でした。

〒96018253
福島市泉字泉川15-7
電話 024(557)8780
(開館時間)
午前10時～午後4時
(定休日)
土曜日・日曜日



堀川さん(左)と自治会役員・三瓶一義さん

震災後、私たち一家は、かつて生活していた富士宮市に避難しました。原発事故が深刻化する中で勤務先を解雇され、富岡高校の再開は無いものと諦めかけたとき、学校のサテライト開校と同時に宿泊施設を間借りして寮を再開すると連絡がありました。しかし、被災前とは違い、県の緊急雇用での有期採用ということから更新される保障は無く、家族を抱

荒木 信彦さん・春恵さん (中央)

TOMIOKA 桜(さくら) 通信



私は、福島県生まれ、親の転勤により静岡県富士宮市で育ち、福島大学に進学し、本県で6年間の教職員生活を送りました。在職中に結婚し(妻は本県出身)「第二の故郷」である静岡県の教職員となりましたが、8年前、富岡高校を柱とした双葉地区教育構想で生徒寮(桜風寮)の運営にあたらなかつた誘いがあり、新しい試みで理想の選手育成に参画したいと思い、「第三の故郷」である富岡町に参りました。家族ともども、町の皆さんには本当に良くしていただきまし

また、入寮生への支援を含め、寮の運営にも多大なご協力を賜り、誠にありがとうございました。中学校の卒業式が行われた震災発生前、寮には生徒だけでなく、中学校を卒業した生徒の保護者もおり、またその夜には、周辺住民の方の姿も多く見られました。翌朝からの避難となりましたが、親元を離れて入寮していた生徒にとっては、とても不安だったと思います。子を持つ親として、遠方から子どもの安否を心配する保護者の方々の気持ちを思うと、とても辛いものがありました。また、アスリート育成のための拠点となる、桜風寮をゼロから創ってきた自負があるだけに、それが無くなってしまふことは非常に無念でした。

被災まで、福島県体育協会の職員として、双葉地区教育構想による生徒が生活していた「桜風寮」の管理運営、入寮生の指導監督を行っていた。現在は、富岡高校サッカー・ゴルフ両部に所属する生徒の一部が住む、飯坂温泉ホテル天竜閣内の仮設寮「桜風寮天竜閣」で、妻とともに寮生の指導監督にあたっている。



富岡町出身の入寮生とともに手前左・平良杏太さん(西原)手前右・草野倫仁さん(高津戸)

え不安定な生活に躊躇したものの、妻が、自分も一緒にやるからと背中を押してくれました。そして、昨年5月から再び生徒たちと向き合う生活を始めました。現在、私たち夫婦の勤務先は福島市、被災当時高校生だった長男は大学生となり東京都、中学生の次男は二本松市の妻の実家と家族が離れて生活しています。

富岡と猪苗代、ふたつの名前を
ひとつの大きな力に

全国中学校体育大会 男女団体3連覇

富岡第一中学校
バドミントン部



前列、宮本町長を挟み左から吾妻咲弥選手、女子主将・仁平菜月選手、男子主将・山澤直貴選手、佐藤雄輝選手
後列、吉田隆見校長(右)と齋藤亘監督



男子主将
山澤 直貴 選手

大会では、チーム一丸となった戦いで優勝することができました。この成績に満足することなく、これからも頑張っていきたいです。



女子主将
仁平 菜月 選手

富岡町の皆さんの応援が私たちの背中を押してくれました。これからは皆さんに元気と勇気をお届けできるよう、練習に励みたいです。

8月17日から静岡県富士宮市で行われた第42回全国中学校バドミントン大会において、避難により猪苗代中学校を活動拠点としている富岡第一中学校バドミントン部が、3年連続となる男女揃った団体優勝を果たしました(震災前から数え男子が4連覇、女子は3年連続4回目)。

9月11日に富岡町役場郡山事務所で行われた優勝報告会には、富岡一中の吉田隆見校長、バドミントン部の齋藤亘監督と、選手4人が出席。宮本町長が「厳しい環境の中で

大会では、個人戦でも本田大樹選手と筑後恵太選手が男子ダブルス優勝、仁平菜月選手が女子シングルスで優勝するなど、団体戦と合わせ4冠を獲得。齋藤監督は「避難生活の中、選手たちはお互い支え合いながら生活している。その抱負を語りました。その他の成績は次のとおりです(敬称略)

- 男子ダブルス第3位 久場圭祐・佐藤雄輝
- 男子真大・久保田友之祐
- 男子シングルス第3位 山澤直貴
- 女子ダブルス第3位 由良なぎさ・永井瀬琴

富岡町の小・中学生が、彦根市の魅力を満喫



和太鼓グループによる古城太鼓の演奏

歓迎セレモニーでは、大久保貴市長が「富岡町の未来を担う小・中学生とそのご家族に、彦根の自然を心ゆくまで堪能し、明日への糧を培って頂ければと思います。3日間の活動で富岡町の皆さまと彦根市民が心を通わせ、絆を一層深めていけることを願って止みません」とあいさつされ、彦根古城太鼓のメンバーが力強い演奏を披露しました。

参加した親子は、彦根市若葉小学校の6年生と一緒に宇曾川でリバーボートを楽しんだり、キャンプファイヤーや彦根城を見学するなど、いろいろな体験を通じて地元市民との交流をはかりました。

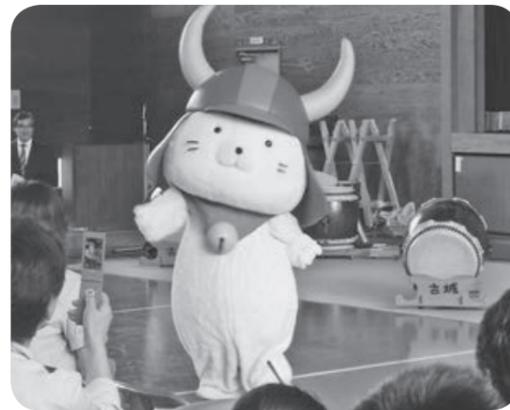
震災後、これまでのように自然の中で十分身体を動かすことができずいた子どもたちでしたが、「彦根市の自然の中

富岡町の小・中学生とその保護者53家族111人が、8月20日から2泊3日の日程で滋賀県彦根市を訪れ、充実した夏の思い出をつくりました。

今回の訪問は、震災直後から延べ40人の職員を派遣するなど本町の復興支援に従事していた彦根市より、長引く避難生活を余儀なくされている子どもたちとその家族を招き、同市の自然や文化・歴史にふれ、心身ともにリフレッシュしてほしいと企画されたものです。



宇曾川でリバーボートを体験



「ひこにゃん」も駆け付けてくれました

で思いっきり遊ぶことができ嬉しかったです「楽しい夏休みの思い出ができて、元気をもらいました」など、今回の訪問で彦根市の魅力を満喫した3日間となりました。



彦根伝承の盤上ゲーム「カロム」に挑戦

小林亨輔君(東京都府中六中1年)リトルリーグで世界制覇

野球のリトルリーグ・ワールドシリーズが8月25日、アメリカペンシルバニア州で行われ、本町から東京都府中市に避難中の小林亨輔君(新町)が所属する日本代表の武蔵府中リトルリーグが優勝し、世界チャンピオンに輝きました。

震災前から野球が好きだった小林君は、避難後強豪の同リトルリーグに加入。初めの頃は練習に付いていけず悔しい思いをしたものの、ランニングや素振りなどひたむきな練習を続け、レギュラーの座をつかみ取りました。

大会決勝戦では外野手で先発出場し、5回からリリーフとしてマウンドへ。相手打線を抑え見事勝ち投手となった小林君は「世界一になることができ、とても嬉しいです。ワールドシリーズのマウンドに立てたことは一生忘れられない思い出で、次の目標は中学、高校での全国制覇です」と、優勝の喜びとこれからの抱負を語ってくれました。



JAPANのユニフォームに身を包む亨輔君(左)と、「これからも多くの皆さんから愛される選手になってほしいです」と喜びを語る父の匡さん

富岡町スポーツ大会出場選手等激励金交付式



大舞台での活躍を誓ったドリーム富岡(後列左から3人)と富岡高校バドミントン部の皆さん

富岡町スポーツ大会出場選手等激励金の交付式が富岡町役場郡山事務所でされ、選手の皆さんに宮本町長から激励金が手渡されました。団体名と選手名は次のとおりです(敬称略)。

- ・ドリーム富岡ソフトバレーチーム
高橋美智子 佐藤まゆみ 荒 よし子
八巻枝美子 高橋 弥生 遠藤亜矢子
久保井良子 野崎タイ子 小林 幸枝
- ・富岡高校バドミントン部
保木 拓朗 小林 優吾 古賀 穂
西 豊 小林 大吾 三橋 健也
渡辺 勇太 光島 理貴 大堀 彩
濱北 もも 東野 有紗 川上紗恵奈
仁平 明花

- ・会津ジュニアバドミントンクラブ
齋藤 昂(会津若松市立門田小学校6年)
※震災により会津若松市に避難
また、交付式のあと8月のインターハイで男子団体優勝、女子団体準優勝を果たした富岡高校バドミントン部の成績報告会が行われ、同部の本多裕樹顧問が宮本町長に大会の結果を報告し、西豊さん(2年)と大堀彩さん(2年)が試合の様子や今後に向けての抱負を語りました。



「小学生最後の大会を頑張ります」と抱負を語った齋藤 昂君と母の美和子さん

光の国から子どもたちのために 円谷プロがスクールバスを寄贈

県内の小中学校で2学期の始業式が行われた8月26日、富岡幼稚園・小中学校三春校にウルトラマンバスが納車され、スクールバスとして運用を始まりました。

今回の寄贈は、円谷プロダクション「ウルトラマン基金」被災地支援の一環によるもので、納車式では同基金の城戸正一事務局長が「ウルトラマ



車体の左右に描かれた11人のウルトラヒーロー



待ちに待ったバスの前でポーズをとる児童たち

ンは福島県が育てたヒーローです。これからも勉強と遊びに励み、皆さんの希望と笑顔をバスに乗せてください」とあいさつ。子どもたちは、車体に描かれた憧れのウルトラ兄弟に目を輝かせながら笑顔でバスに乗り込んでいました。

スポーツで地域住民と交流 地区別グラウンド・ゴルフ大会

NPO法人さくらスポーツクラブ主催による地区別グラウンド・ゴルフ大会が、8月20日から県内各会場で行われました。

富岡町では震災前からグラウンド・ゴルフが盛んで、現在も多くの愛好者が避難先でプレーを楽しんでおり、今回は日頃お世話になっている地元の皆さんも交えての開催となりました。

大会はいわき市2会場のほか、郡山市、大玉村、三春町で行われ、県内外から参加した富岡町民と



気の合った仲間とのプレーは最高ですね

地元愛好者の皆さんがプレーを通し交流を図りました。

いわき会場に参加した地元の愛好者は「避難生活は大変だと思うが、健康のためにも愛好者同士、これからも一緒に仲良くプレーして交流していきたい」と語られ、富岡町のグラウンド・ゴルファーにエールを送りました。



交流を深めた参加者の皆さん(いわき会場で)

町内の放射線量

富岡町が独自に実施した町内の空間放射線量の測定結果をお知らせします(単位:マイクロシーベルト/h)

測定日:平成25年9月12日(晴れ)~13日(晴れ)

No.	測定場所	測定日	地上1m	地上10cm
1	下千里消防屯所	9/12	2.65	4.48
2	上千里消防屯所	9/13	2.06	2.61
3	杉内消防屯所	9/13	2.16	3.39
4	第二工業団地入口	9/13	4.70	5.75
5	高津戸集会所	9/12	4.76	8.30
6	富岡第二中学校東側	9/12	1.85	2.42
7	新夜ノ森集会所	9/12	6.61	8.74
8	夜の森公園	9/12	2.96	5.78
9	松の前待避所	9/12	10.60	17.10
10	小良ヶ浜集会所	9/12	6.57	7.52
11	町境(小良ヶ浜地区)	9/12	8.57	11.20
12	深谷消防屯所	9/12	6.27	6.78
13	富岡町営野球場	9/13	1.01	0.76
14	観陽亭前	9/13	1.33	2.59
15	富岡合同庁舎西側	9/13	3.05	3.45
16	富岡養護学校	9/13	3.77	7.26
17	老人福祉センター	9/12	6.24	10.70
18	夜ノ森駅	9/12	6.11	7.18
19	王塚集会所	9/12	5.14	6.72
20	諏訪神社前	9/12	3.55	4.02
21	上本町消防屯所	9/12	3.31	4.15
22	上本町集会所	9/12	2.71	3.15
23	リベラルヒルズ入口	9/13	2.60	4.18
24	赤木集会所	9/13	2.14	3.76
25	上郡山集会所	9/13	1.75	2.27
26	太田集会所	9/13	1.14	1.43
27	原下消防屯所	9/12	1.40	1.88
28	富岡駅	9/13	0.85	1.78
29	清水消防屯所	9/13	2.25	2.64
30	役場	9/12	2.16	2.36
31	浄化センター	9/13	0.87	1.13
32	毛萱集会場	9/13	0.56	0.52
33	富岡保育所	9/13	2.23	3.51
34	中央児童館	9/12	2.77	3.86
35	栄町駐車場	9/13	2.08	2.78
36	岩井戸消防屯所	9/13	1.52	2.31

No.	測定場所	測定日	地上1m	地上10cm
37	小浜住宅団地内公園前	9/13	3.93	6.68
38	双葉環境センター	9/13	2.52	5.65
39	NHK電波塔入口(浜街道)	9/13	4.11	5.47
40	深谷集会所	9/12	5.97	6.46
41	赤坂神社前	9/12	6.63	8.13
42	太平洋フリーディング前	9/12	13.30	20.90
43	みよし前交差点	9/12	10.00	16.90
44	富岡自動車学校前	9/12	6.75	11.40
45	リフレ富岡	9/12	4.05	4.84
46	東洋育成園前	9/13	4.05	5.61
47	富岡インター駐車場	9/13	3.29	4.46
48	上手岡児童館	9/12	2.75	3.45
49	下千里ライスセンター前	9/12	2.92	4.68
50	鶴山荘前	9/12	3.39	4.96
51	夜の森つつみ公園	9/12	4.58	4.95
52	総合運動場東側駐車場	9/12	4.83	7.32
53	華の樹前	9/12	5.37	7.28
54	宝泉寺前	9/12	3.57	8.30
55	国道6号第二原発入口前	9/13	1.23	1.81
56	猪狩スタンド前	9/13	1.43	2.25
57	なべや駐車場前	9/12	1.16	1.99
58	大東銀行富岡支店前	9/12	2.73	3.34
59	富岡漁港	9/13	0.57	0.55
60	サンライズイン富岡前	9/13	1.04	1.61
61	福島富岡簡易裁判所前	9/13	2.76	4.23
62	ヨークベニマル富岡店前	9/13	2.43	3.27
63	今村病院前	9/12	4.43	8.10
64	福島銀行富岡支店前	9/12	2.24	4.07
65	龍台寺前	9/13	2.50	4.59
66	清水団地前	9/13	2.52	3.44
67	猪狩電気通信工業前	9/13	2.41	3.30
68	上郡消防屯所	9/13	2.24	3.23
69	岩井戸鉱泉	9/13	1.24	1.72
70	富岡工業団地	9/13	1.62	1.62
71	成沢の滝入口	9/13	1.41	2.02
72	沼名子橋	9/12	2.36	3.67

測定器:γ線用シンチレーションサーベイメーター(日立アロカメディカル社製)

一時帰宅者の熱中症対策に ミネラルウォーターを寄贈 郡山西ロータリークラブ



宮本町長に目録を手渡す伊東会長(前列左から2人目)

郡山市の郡山西ロータリークラブの伊東正司会長らが、8月19日に富岡町役場郡山事務所を訪れ、500ml入りのミネラルウォーター4,800本を寄贈されました。

今回の寄贈は、福島県の国際ロータリークラブ第2530地区の「水からプロジェクト」の一環によるもので、一時帰宅者の熱中症対策として町内下郡山集会所に開所した富岡町役場連絡所で希望者に配布しています。

※飲料水の配布は在庫が無くなり次第終了となりますので、予めご了承ください。

義援金をいただいた企業・団体・個人名を掲載いたします (平成25年7月~8月分 順不同・敬称略)

- ・これまで寄せられた義援金 5億1,802万8,867円(8月末日現在)
- ・配分された額(国、県義援金は除く) 2億3,994万円(同)

井川自転車店(東京都) タキムラカオル ウンノアツシ ヤマトメタル
富岡町議会議員OB会 会長 渡邊良一(千葉県) エヌオンライン株式会社(東京都)
浄土真宗本願寺派たすけあい運動募金(京都府) タワーレコード

「富岡高校 平成8年度卒業生同窓会のお知らせ」 (S.52年4月~S.53年3月生まれ)

標記同窓会を下記のとおり開催いたします。富岡高校における女子高最後の学年として、青春を分かち合った旧友たちやお世話になった先生方と再会し、大いに語り合ひましょう。多くの皆さまの参加をお待ちしております。

なお、現住所が不明の方への招待状はご実家宛てに送付させていただきましたが、転送の状況等により送付できなかった方がおりますことをお詫びいたします。

また、就業や転居等により本案内を確認できない同窓生も多いと思われるため、ご家族の皆さまにはお手数をお掛けいたしますが、平成8年度に富岡高校を卒業されたお子さまがいらっしゃいましたら、本内容をお取次ぎいただければ幸いです。

1. 開催日 平成25年11月9日(土) 11:30開場 12:00開始
2. 会場 La STANZA(スタンツァ) いわき市平3丁目8-2(3階)
3. 会費 5,000円
4. 問い合わせ先 幹事代表 渡邊里美(旧姓・秋元) ☎ 080-1856-5252
渡邊琴美

「友情をいつまでも」富岡第二中学校平成9年度卒業生同窓会



富岡第二中学校平成9年度卒業生の同窓会が、7月13日に郡山市の「菊蔵」さんで行われ、同窓生30人が久々の再会を果たしました。

震災前、この店は富岡町で「客神」として営業され、出席者は懐かしい味に舌鼓を打ちながら、お忙しい中駆けつけてくださった2人の恩師を囲み、懐かしい思い出話に花を咲かせました。

「地域と世代を越え、和やかに親睦会」富岡町さくらサロン



福島市及び県北地区在住富岡町民自治会による親睦会が、福島市飯坂町の広瀬公園で行われました。

この親睦会は福島大学災害ボランティアの企画によるもので、同ボランティアメンバーや桑折町醸芳中学校の生徒、また、桑折町社会福祉協議会など被災者支援団体の皆さんも多数参加し、夏の青空の下で思い出に残る楽しい一日を過ごしました。

あなたが撮った写真をお寄せください

広報とみおかでは、町民の皆さんが撮影された写真を募集しています。写真のテーマは問いませんので、ふるってご応募ください。

◇応募要件

- ・データの場合はメールに添付できるサイズ、プリント写真は写真専用紙に印刷されたもの。
- ・富岡町民で、氏名・現在お住まいの市町村名、富岡町の行政区名を掲載可能な方。
- ・写真のタイトルと説明文(150字程度)を添付してください。
- ・応募された写真は返却できません。また、応募が多数の場合は選考の上掲載させていただきますので、あらかじめご了承ください。

◇応募方法

- ・現在お住まいの住所、氏名、富岡町での行政区名、電話番号をご記入の上、デジカメ等のデータの場合は下記アドレスへメールで、プリント写真を郵送の場合は封書で下記までお送りください。
- ・メールアドレス
tomioka.machi@gmail.com
- ・住所
〒963-0201
福島県郡山市大槻町字西ノ宮48-5
富岡町役場郡山事務所企画課情報統計係

— 今月の表紙：「3年ぶりの富岡町敬老会」 —

震災後初めて開催された富岡町敬老会。

会場のあちらこちらに、再会とお互いの元気・健康を喜び合う笑顔の花が咲きました。



この印刷物は、FSC®の基準に従って認証され、適切に管理された森からの木材を含んだ用紙を使用して印刷しています。

